

地域づくり通信



岡山市保健所で保護された猫と犬。令和4年度市民協働推進事業では、これらの猫・犬を対象とした事業が実施されています。

「おかやま地域づくり通信」とは？

「おかやま地域づくり通信」は、岡山市民の「協働(※)」への理解と参加の促進を目的に岡山市(ESD・市民協働推進センター)が発行する機関誌です。今号では、市民活動団体等と行政が協働で岡山市の課題解決をはかる「市民協働推進事業」と、住民が主体となって地域の課題解決や魅力向上に取り組む「区づくり推進事業(地域活動部門)」を題材として、事業に関わる人たちの思いを紹介します。

※協働:同じ目的を達成するために、互いを尊重し、対等の立場で協力して共に働くこと

令和4年度「市民協働推進事業」の紹介



「野良猫等の乳飲み仔猫対策について」



事業の目的

岡山市(保健所)で引き取られている猫の80%以上(令和元年度)がまだ離乳していない赤ちゃん猫です。現在、岡山市では殺処分していませんが、猫を育て、飼い続けることはできないため、市民ボランティアが保健所から猫を引き取り、一定の段階まで育て、譲渡しています。しかし、引き取られる赤ちゃん猫の総数に対してボランティアの人数が圧倒的に不足しているため、ボランティアの発掘・育成とボランティアの負担を少しでも軽減し、活動の継続を支えるためのサポート体制の整備が必要不可欠な状況です。

この事業では、赤ちゃん猫の成長を支える「ミルクボランティア」の募集とその活動をサポートするとともに、より多くの譲渡を実現するための譲渡会の開催や情報発信のノウハウ構築を進めています。保護されたすべての赤ちゃん猫が命を落とすことなく成長し、適切な譲渡先で幸せな一生を終えられることを目指しています。

事業の内容

令和4年度の主な事業予定は次のとおりです。

- ①ミルクボランティア説明会の開催(年2回)
- ②ミルクボランティアへのサポート(通年)
- ③ボランティア活動を支える資料や連絡網の作成
- ④譲渡会の開催(年5回)
- ⑤譲渡を支える資料の作成

令和3年度から事業を開始しており、令和4年度で2年目となります。実績をあげることで事業の継続(市の一般施策化)を目指しています。

事業の実施主体と役割分担

ボランティアグループ「岡山手のひら子猫」と保健所衛生課による協働事業です。事業ではそれぞれが持つ経験や資源に基づき、以下のような役割分担がなされています。

岡山手のひら子猫	保健所衛生課
<ul style="list-style-type: none">・説明会の企画と運営・ボランティアのサポート・資料の作成と見直し・譲渡会の企画・運営	<ul style="list-style-type: none">・説明会の広報・各種情報提供・市民へ向けた情報発信・施策化への手続き等

「市民協働推進事業とは？」

岡山市の社会課題を解決するために協働によって実施される事業に対して補助金を交付する制度です。補助期間は最大2年間で、期間終了後も市の一般施策や団体の自主事業として、取組を継続していくことを目指します。令和4年度は人と犬猫の共生する岡山市をつくるために「野良猫等の乳飲み仔猫対策について」と「保護犬の人馴れ訓練プロジェクト」の2事業が実施されており、今号では、この2事業について詳しく紹介します。

岡山手のひら子猫 平賀 由美 さん



活動をはじめたきっかけを教えてください。

もともとは犬派で、むしろ猫は苦手だったのですが、2012年の引っ越しを機に、ポロポロの状態の子猫2匹を保護した事で猫も可愛いと思えるようになりました。その頃、SNSで、殺処分予定の子猫の写真を見て、こんなに可愛いのだったら殺処分しなくても、欲しい人がいるのではと思った事がきっかけとなり、猫のレスキューボランティアをはじめました。

「野良猫等の乳飲み仔猫対策について」事業で実現したいことはなんですか？

まずは野良猫の数を減らす事が一番肝心なのですが、すでに外で生まれてしまった子猫のレスキューも決してではありません。乳飲み子猫を育てるには、時間、体力、費用等のノウハウが必要です。これらを兼ね備えたミルクボランティアを一人でも多く増やして、岡山市の野良猫問題を解決するお手伝いが出来ればと思います。この事業でミルクボランティアを養成するための講座を開催しておりますので、関心のある方のご参加をお待ちしております。

岡山市民へのメッセージをお願いします。

猫好きな方、猫が嫌いな方、猫に関心のない方など様々な考えを持った方がいらっしゃいます。身近に、野良猫問題がない方にはピンとこないかもしれませんが、猫が外で暮らしている事で、糞尿問題、猫好きな住民と猫嫌いな住民との対立、事故で轢かれた猫を見かける事による心的ストレスなど、様々な問題が浮上しています。

外で暮らす猫をゼロにすることで、こういった問題は解決します。すぐに外猫をゼロにすることは出来ませんが、猫好き、猫嫌いに関係なく、地域の環境の改善のため、出来ることで構いませんので、ご協力いただけるとありがたいです。

保健所衛生課 竹信 早和 さん



岡山市(保健所)がこの事業を提案された背景を教えてください。

本市が引き取る猫の80%以上が離乳前の幼齢猫ですが、コスト、施設、人員面等から本市では養育できません。そのため、ボランティアが引き取り、育て、新たな飼い主へ譲渡している状況ですが、相応の経験、時間、責任が求められるため、慢性的に担い手が不足しています。そこで、幼齢猫の命をつなぐ「ミルクボランティア」の養成とボランティア活動を継続して行える体制の整備を目的として事業を提案しました。

協働のパートナーである「岡山手のひら子猫」に期待することはなんですか？

令和3年度の協働事業においては、ミルクボランティア説明会を2回開催し、新規ボランティア15名を獲得しました。譲渡会は6回開催し、17匹を譲渡につなげました。

今後も、これまでの経験を活かし、ウェブサイトやイベントでの情報発信、講座の開催等により、新規ボランティアの発掘と養成、サポートを期待します。さらに、適正飼養の啓発と譲渡事業の拡充につながるよう、本市との協力体制の強化を期待します。

事業の展望を教えてください。

乳飲み子猫を一定レベルの経験、知識を兼ね備えたボランティアに託し、健康に育て、適正な飼い主に譲渡するため、ボランティアへの支援制度を強化した一般施策化を目指します。また、ウェブサイトでの情報発信やボランティアの養成及び情報交換の機会を定期的に設けることで、一定数のボランティアを確保し、安定的・持続的な譲渡事業につなげたいと考えています。



「保護犬の人慣れ訓練プロジェクト」



事業の目的

岡山市では年間約150頭(令和元年度)の飼い主のいない犬が保健所に引き取られています。殺処分を避けるため、これらの犬たちは元の飼い主へ返還されたり、新たな飼い主へ譲渡されることとなりますが、高齢かつ人に慣れていない犬は譲渡が難しく、保健所で一生を終えることとなります。

このような状況を未然に防ぐべく、本事業では、人に慣れていない犬たちを訓練(人慣れ訓練)するボランティアを募集・養成しながら、訓練を受けた犬が新たな飼い主に出会えるよう、譲渡会を開催することで不幸な一生を過ごす犬がいない社会の実現を目指しています。

事業の内容

- 令和4年度の主な事業予定は以下のとおりです。
- ①ボランティア募集(随時)
 - ②保護犬の人慣れ訓練(毎日)
 - ③ボランティアの育成のための研修(毎月)
 - ④譲渡会(市内2か所、毎月と隔月の開催)
 - ⑤訓練士や獣医師との関係強化(随時)

令和3年度から事業を開始、令和4年度で2年目となります。継続的にボランティアを集め、育成するための基盤をつくり、補助期間終了後も継続的に運営し続けること(一般施策化)を目指しています。

事業の実施主体と役割分担

令和3年度に一般社団法人ALL AS ONEと保健所衛生課による協働事業として開始され、令和4年度は訓練と譲渡のそれぞれの機能強化を目指して、NPO法人鳥城犬猫動物育英会が実施主体に加わっています。

NPO法人 鳥城犬猫動物育英会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護犬の人慣れ訓練 ・ボランティアの育成 ・譲渡会(毎月)
一般社団法人 ALL AS ONE	<ul style="list-style-type: none"> ・保護犬の人慣れ訓練 ・譲渡会(隔月) ・譲渡に関する情報発信
保健所衛生課	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に向けた情報発信 ・専門家等とのつなぎ ・施策化への手続き等

市民協働推進事業と実施主体を応援してください！

市民協働推進事業の実施団体及び岡山市のウェブサイトでは、随時、ボランティア募集や犬猫の譲渡に関する情報を発信しています。右のコードからウェブサイトをご覧ください、実施団体と岡山市の取組への参加や活動の周知拡大にご協力ください。

活動をはじめたきっかけを教えてください。

幼いころから動物が大好きで、保護犬を家族に迎えたのを機に、同じような境遇の子を助けるために何かお手伝いできればと思ったのがきっかけでした。

「保護犬の人慣れ訓練プロジェクト」で実現したいことはなんですか？

施策化すれば、今以上に余裕を持って犬と関わることができるので、可能性が広がり、譲渡の促進にもつながります。そのためにもまずは一人でも多くの人に保護犬のことを知ってもらうための環境づくりができればと思っています。



活動をはじめたきっかけを教えてください。

約10年前より、せめて自分が住むまちの犬猫の殺処分を無くしたいと思い、ボランティア活動を始めてから現在に至っています。岡山市保健所と登録ボランティアの皆様の協力により、平成29年度より殺処分0(ゼロ)を継続しています。岡山市保健所から人に慣れるための訓練を行うことにより譲渡につながりやすくなるのではとの提案を受け、協働事業を実施することになりました。

「保護犬の人慣れ訓練プロジェクト」を通じて感じている変化などがあれば教えてください。

このプロジェクト前後から、岡山市保健所が「殺処分」ではなく「生かす」方針へ舵を取られた意義は大きいと思います。また、譲渡会や関連の情報が市民に周知され、保護犬に関心を持つ方が少しずつ増えていることを感じています。施設がある南区小串地域においても保護犬への理解に変化があり、現在では活動への協力を受けています。小学生から専門学校生と次世代を担う若い人たちの見学やボランティアも増えており、命の大切さを学ぶ場にもなっていると感じています。

協働のパートナーである「NPO法人鳥城犬猫動物育英会」と「一般社団法人ALL AS ONE」に期待することはなんですか？

保健所が保護・収容した所有者の判明しない犬のうち、野良犬等、人に馴れていない個体にも生存の機会を与えるため、これらの犬に対して、人や社会への馴化(じゅんか)訓練を一定の質を保ちつつ継続的に実施し、譲渡可能な状態にするための体制整備がひとつです。

加えて、事業の継続に必要なボランティアの教育や譲渡前後の飼い主に対するフォローなどの支援基盤確立、効率的な譲渡を実現するための情報収集や機会の充実を期待しています。

事業の展望を教えてください。

令和4年7月末時点で、人馴れ訓練実施後に譲渡した犬は33頭となりました。この事業を開始する前は一般市民へ譲渡できなかった犬たちの生存機会が確保されたことで、当初の目標は達成されたと考えています。

今後は事業のさらなる拡充や周知に力を注ぎ、より円滑な譲渡へとつなげるため一般施策化を目指します。



岡山手のひら子猫



NPO法人鳥城犬猫動物育英会



一般社団法人ALL AS ONE



岡山市(保健所衛生課)

令和4年度「区づくり推進事業(地域活動部門)」の紹介

「小串学区再生プロジェクト」

事業の目的

岡山市南区の小串学区では、少子高齢化の影響により、住民同士の交流の減少や様々な生活の困難・不安が顕在化しつつあります。そこで、「若者の定住促進」、「買い物支援」、「防災」、「空き家対策」の4つのテーマに関する事業を実施して、若者の定住促進と住みやすい地域づくりにつなげていくことを目的としています。

事業の内容

令和4年度の主な事業予定は以下のとおりです。(申請時点での予定となるため、実際の事業内容は変更となる可能性があります。)

①カモメ朝市

地域の賑わいづくりを目的に地元の農家や漁師をはじめ、様々なお店が出店される朝市を3か月に1回のペース(4月、7月、10月、1月)で実施します。



4月17日の「カモメ朝市」の様子(プライバシー保護のため加工)
約30の出店者と約2,100名の来場者に恵まれました



地元で採れた鮮魚と野菜も大人気でした

②買い物支援

毎週火・土曜日に地区内の集会所でパンと豆腐の委託販売を実施します。買い物に訪れた住民同士の交流を促すこともねらいとしています。

③防災訓練

自衛隊による実演等を盛り込んだ防災訓練を実施します。住民には訓練への参加だけでなく、準備や運営にも協力してもらっています。

④空き家の現状調査

町内会の協力を得ながら空き家マップを作成します。可能な範囲で持ち主を特定して、連絡を取ることで、空き家または空地の再利用へつなげます。

事業の実施主体

- 実施団体:カモメ朝市実行委員会
- 協働する団体等
 - ・小串町内会
 - ・阿津町内会
 - ・向小串町内会
 - ・米崎町内会
 - ・相引町内会
 - ・岡山市消防団小串分団
 - ・米粉パン専門店大元工房
 - ・若観門豆(豆腐屋)

代表者コメント

カモメ朝市実行委員会代表 中川 三郎さん

小串学区は、小島半島の一番東に位置し、まさに限界集落の真ただ中にあります。

今、活性化のために声をあげなければという気持ちで「朝市」の計画を打ち上げたところ、郷土出身の若者たちが結束し、呼応してくれました。「カモメ朝市」の命名やポスターのデザインを手掛け、小串学区を生活しやすい、住みよいまちにするために立ち上がってくれています。

「区づくり推進事業」を通じて、自然に恵まれた地域として認知が広がりつつあるため、さらに団結を深め、光南台地域全体の活性化につなげていきたいと思っています。なお、次の展開として高齢者の移動手段の確保を検討しているところです。

令和4年度「区づくり推進事業(地域活動部門)」一覧

各事業の詳細はウェブサイト「つながる協働ひろば」からご確認ください。
(裏表紙にコードを記載しています)

区	事業名	実施団体	北	「産地牟佐」にこだわった地域活性化	牟佐町内会
北	建部地域伝統芸能伝承事業	建部町伝統芸能伝承保存会	北	ベターライフ御南ふるさとづくり活動	御南学区ボランティア団体ベターライフ御南
北	「やさしく走ろう京山」運動の推進	岡山市京山地区ESD・SDGs推進協議会	中	地域づくり会議の運営と事業展開	平井学区地域づくり会議

「区づくり推進事業(地域活動部門)」とは？

区づくり推進事業は区民が主体的に企画・運営する活動に対して、岡山市が予算の範囲内で活動資金の一部を補助する制度で、「地域活動部門」は主に課題解決のための継続的な活動が対象となります。
今号では、令和4年度から開始された「小串学区再生プロジェクト」と「万の富を探す会」を紹介します。

「万の富を探す会」

事業の目的

岡山市東区の千種学区内には万富東大寺瓦窯跡や宗堂の桜など、全国的にも有名な歴史遺産が多く存在していますが、住民の関心は高いとは言えず、知識を継承する人材の育成が課題となっています。そこで、ボランティアガイドの養成と小学生向けの教材作成を目的とした、中長期の事業を開始しました。

事業の内容

令和4年度の主な事業予定は以下のとおりです。(申請時点での予定となるため、実際の事業内容は変更となる可能性があります。)

①観光ボランティアガイド養成講座の実施
座学と現地研修による養成講座を月1回のペースで実施しています。



発掘調査中の「万富東大寺瓦窯跡」で岡山市職員の解説を熱心に聞き入る観光ボランティアガイド養成講座の受講者。

②パンフレットとDVDの作成
小学生の学習用教材としても使用できる観光ガイドブックを作成して、郷土への理解と愛着の醸成に活用します。

③講習会・勉強会の開催
地域住民の関心を高めるため、各種団体の会合を利用した勉強会を開催します。

④案内看板の設置
JR万富駅から史跡までの道のりに看板を設置して、歩きながら学習ができるウォーキングロードを整備します。

⑤ホームページでの情報発信
千種学区電子町内会のホームページを活用して、リアルタイムでの情報発信を行います。

事業の実施主体

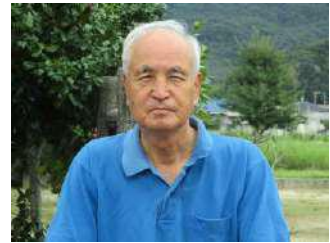
- 実施団体:千種まちづくり協議会
- 協働する団体等:
 - ・千種学区連合町内会
 - ・岡山市立千種小学校
 - ・キリンビール株式会社岡山工場
 - ・一般社団法人マチノフ
 - ・万の富を探す会

代表者コメント

「万の富を探す会」が行っている事業で、観光ボランティアガイド養成講座があります。この講座は30名が受講し、受講生の中には小学生が12名、中学生が2名と次世代を担う若者が多く参加しており、地域の歴史の継承に一役買っています。

講座は、座学と現地研修があり、現地研修では史跡を取り巻く自然を肌で感じながら、歴史の勉強をしています。

将来、この子どもたちが大人になった時に自分が生まれた町の話をするにより、歴史の継承につながっていくことを期待しています。



伊永 高明 会長



現在設置されている案内板・模型・石碑。

中	地域防災力の向上～災害犠牲者を出さない～	富山学区自主防災会	東	地域で支え合う仕組みづくり	NPO法人城東台みんなの互助会
中	とみやま助け合い隊	とみやま助け合い隊	東	万の富を探す会	千種まちづくり協議会
中	旭竜学区助け合い隊推進事業	旭竜学区支え合い推進協議会	東	浮田ふるさと再発見事業	亀山城跡保存会
東	平島・元気で輝き事業	平島健康福祉委員会(HKF)	南	大規模災害に備える安全安心な二藤作り	第二藤田学区大規模災害対策委員会
東	石井十次に学ぶ会	石井十次に学ぶ会	南	小串学区再生プロジェクト	カモメ朝市実行委員会

ESD・市民協働推進センターの紹介

ESD・市民協働推進センターは岡山市協働のまちづくり条例の第8条に規定された協働のコーディネート機関です。平成26年の事業開始以降、現在まで行政・NPO・町内会・企業・学校・公民館などのさまざまな組織をつなぎ、協働を推進しています。そのほかにも、協働の担い手の発掘や育成、情報共有や交流の場の提供、多様な主体が社会課題の解決のために実施する事業の伴走支援など、条例で規定された施策の実施やその支援を担っています。協働に関する問い合わせ・相談にも日常的に応じているので、お気軽にご利用ください。

平成26年度から令和3年度まで(約8年間)の実績

	総数(のべ)	平均/年
相談件数	2,149件	268.6件
相談人数	4,715人	589.3人
マッチング件数	134件	19.1件

令和4年度のスタッフ紹介



センター長
高平 亮



アドバイザー
野崎 麻衣



アドバイザー
前野 泰子



サポートスタッフ
森下 直子

事業紹介

ESD・市民協働推進センターでは、日常的な相談対応のほか、以下のような事業を通年で実施しています。各事業の詳細についてはウェブサイト「つながる協働ひろば」(ページ下部、URLとコードあり)にてご確認ください。

分類	主な事業(一部抜粋)
多様な主体による協働の推進	<ul style="list-style-type: none">・課題解決ワークショップの企画・運営・市民協働推進事業、ニーズ調査事業の伴走支援・市民協働フォーラムの企画・運営・市民活動リーダー養成講座の企画・運営・「おかやま協働のまちづくり賞」の運営支援・NPO法人ネットワーク促進事業の企画・運営
地域における協働の推進	<ul style="list-style-type: none">・区づくり推進事業(地域活動部門)の支援・地域協働フォーラムの企画・運営・地域活動リーダー養成講座の企画・運営・公民館職員研修の企画・運営
ESD・SDGsの普及・啓発	<ul style="list-style-type: none">・ESD事業の新規発掘と活動支援・各種行事の運営支援



令和3年度「市民協働フォーラム」



令和3年度「災害ボランティア養成講座」
(岡山市災害ボランティアネットワーク事務局)

編集後記

協働や地域づくりに関わっている人たちは必ずしも特別な感性の持ち主ではないこと、日常生活の中に活動をはじめのきっかけがあり、一歩を踏み出した結果、協働につながっていることをお伝えしたいと思い、編集しました。少しでも協働を身近に感じていただければ幸いです。インタビューにご協力くださった皆様、ありがとうございました。(高平)

【発行日】令和4年(2022年)10月30日 【発行元】岡山市(ESD・市民協働推進センター)
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市役所 本庁舎2階 市民協働企画総務課内
TEL:086-803-1062 FAX:086-803-1872 E-mail:esd-smc@googlegroups.com
URL(つながる協働ひろば):<http://www.Okayama-tbox.jp/kyoudou> コードはこちら→

